

令和3年度事業計画(美術館)

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

公益目的事業2(展覧会事業)

1.「ミネアポリス美術館展」の開催

- ア. 名称 サントリー美術館 開館60周年記念「ミネアポリス美術館 日本絵画の名品」
- イ. 会期 令和3年4月14日(水)～令和3年6月27日(日)
- ウ. 概要 ミネアポリス美術館(アメリカ・ミネソタ州)は、約2,500点の浮世絵をはじめ、質・量ともにアメリカ国内でも有数の日本美術コレクションを所蔵し、国際的にも高い評価を得ている。本展は、狩野派・琳派・奇想派・浮世絵など江戸絵画を中心に、中世から近代にいたる日本絵画の変遷を展覧する大規模な里帰り展として、同館が誇る日本絵画の全貌を人気絵師たちの選りすぐりの優品で紹介する。
- エ. 展示
- ・群仙図襖(旧・天祥院客殿襖絵) 四面 江戸時代 正保3年(1646)
 - ・花鳥図屏風 六曲一双 雪村周継 室町時代 16世紀
 - ・群鶴図屏風 六曲一双 曾我蕭白 江戸時代 18世紀
- (上記いずれもミネアポリス美術館蔵)
- オ. 備考 共催: ミネアポリス美術館 読売新聞社
巡回: 福島県立美術館 MIHOミュージアム、山口県立美術館

2.「ざわつく日本美術展」の開催

- ア. 名称 サントリー美術館開館60周年記念「ざわつく日本美術(仮称)」
- イ. 会期 令和3年7月14日(水)～令和3年8月29日(日)
- ウ. 概要 作品を「見る」ために展覧会へ行ったものの、解説を読むのに精一杯で、肝心の作品の印象が残っていない...そんな体験はないだろうか?本展では、「心がざわつく」ような展示や作品を通して、「作品を見たい!」という気持ちを高めていただく。当館の名品から珍品、秘宝まで、作品を「見る」ことを意識して愉しみながら、日本美術の粋を気軽に味わえる展覧会である。
- エ. 展示
- ・重要文化財 桐竹鳳凰蒔絵文台・硯箱 一具 桃山時代 17世紀初
 - ・重要文化財 病草紙断簡「不眠の女」 一幅 平安時代 12世紀
 - ・尾上菊五郎 一枚 明治時代 19世紀
- (上記いずれもサントリー美術館蔵)
- オ. 備考 共催: 朝日新聞社 巡回: なし

3.「刀剣展」の開催

- ア. 名称 サントリー美術館開館60周年記念「刀剣 もののふの心」
- イ. 会期 令和3年9月15日(水)～令和3年10月31日(日)
- ウ. 概要 主に近畿地方の社寺に奉納された貴重な刀剣類と武家の暮らしを伝える絵画や史料

で多様な刀剣文化を紹介する。刀剣は京都・大覚寺の「名物膝丸・薄緑」をはじめなだたる名品を展示。当館所蔵の狩野元信筆「酒伝童子絵巻」など刀剣にちなむ絵画も並べ、優れた工芸技術と武士の美意識、精神が織りなす世界を体感いただく。

- エ. 展示
- ・重要文化財 太刀 銘口忠（名物膝丸・薄緑）一口 鎌倉時代 大覚寺蔵
 - ・重要文化財 刀 金象嵌銘（名物義元左文字）一口 建勲神社蔵
 - ・重要文化財 酒伝童子絵巻 三巻 サントリー美術館蔵
- オ. 備考 共催：読売新聞社 巡回：なし

4. 「聖徳太子展」の開催

- ア. 名称 サントリー美術館開館 60 周年記念「千四百年御聖忌記念特別展 聖徳太子」
- イ. 会期 令和 3 年 11 月 17 日（水）～令和 4 年 1 月 10 日（月・祝）
- ウ. 概要 聖徳太子（574～622）は、推古天皇の摂政となり国の礎を築く一方で、仏教を篤く信奉し、日本の仏教の出発点となった人物である。後世には聖徳太子への信仰が生まれ、諸宗派の名だたる高僧、貴族から庶民に至るまで、人々の尊崇を集めてきた。本展では、聖徳太子が没して 1400 年を迎えることを記念し、大阪・四天王寺の協力のもと、その生涯をたどりながら、現代まで続く信仰の広がりや数々のゆかりの名品によって紹介する。
- エ. 展示・国宝 四天王寺縁起 後醍醐天皇宸翰本 一巻 南北朝時代 建武二年(1335)
- ・国宝 扇面法華経冊子 5 帖のうち 平安時代 12 世紀
 - ・南無仏太子像 一軀 南北朝時代 14 世紀
(上記いずれも大阪・四天王寺蔵)
- オ. 備考 共催：和宗総本山四天王寺、大阪市立美術館、日本経済新聞社
巡回：大阪市立美術館

収益事業

1. 物販事業

企画展や収蔵品をモチーフにしたオリジナルグッズの展開に加え、日々の生活に彩りを添える商品を季節ごとに投入して店舗の鮮度を維持し、お客様に繰り返し足を運んでいただけるショップを目指す。

2. 飲食事業

「加賀麩 不室屋」の歴史・伝統を活かした食事・甘味メニューに加え、季節感を取り入れたメニューを展開し、お客様層の拡大およびリピーターの増加を図る。また物販においても手土産・贈答にご利用いただける価格帯の詰め合わせを充実させ、飲食事業の売上の底上げを図る。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出により収益を得るだけでなく、当館ならではの価値の訴求に寄与し、結果として日本のお茶文化の普及にも貢献していく。

以 上